

トーゴ共和国のリン鉱石開発が農業に及ぼす位置付けと課題:

リン鉱石採掘・精製地と農村地の現地調査より

中村克己

1. 調査概要

農業が GDP の中心を占めるトーゴでは、農業生産性が低いことを課題としている。この課題を克服するため、トーゴ政府は、国内で産出するリン鉱石を利用した肥料生産を目指し、2007 年 5 月 14 日にリン酸塩管理会社公営企業・Société Nouvelle Des Phosphates du Togo (以下 SNPT) を設立した。SNPT は、年間 1 5 0 万トンのリン鉱石を採掘・精製している [Kakpo 2023]。

2025 年 1 月 31 日から 2 月 16 日に実施した第 1 回フィールドワークで、①SNPT が実際にリン鉱石を採掘精製し、専用の栈橋から船積みし輸出している事、②SNPT の採掘に伴い採掘地域農民が強制移住を強いられた情報、③採掘廃土の放置とその海洋投棄による海水の変色を確認した。一方で、農民がリン鉱石を用いた化学肥料を使用している事は確認できなかった。

今回のフィールドワークは、第 1 回の結果を踏まえ (1) 採掘したリン鉱石による肥料製造、(2) リン鉱石を用いる農業政策に対する農民の気持ち、(3) リン鉱石開発に伴う環境汚染状況を確認する事を目的として実施した。

2. フィールドワーク調査地と調査スケジュール

2. 1 調査地と実施内容

(1) リン鉱石採掘・精製地及び肥料製造会社

リン鉱石採掘場所のボガメ (KPOGAME) と精製施設が所在するペメ (KPEME) 視察。

首都ロメ近郊に所在する肥料製造会社の確認。

(2) 農村地

ポメ (KPOME)、デクポ (DEKPO)、ペメ (KPEME) を訪問し農民へのヒアリング実施。

(3) 政府及び研究機関

経済・財務省の長官と面談。LOME 大学地質科学研究所で主任教授と面談。

図 1-1 : ポメ

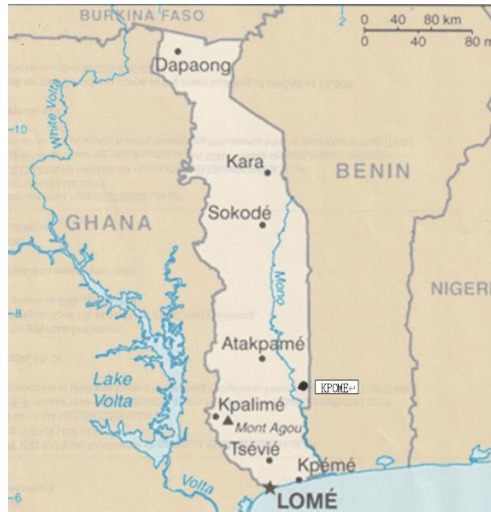
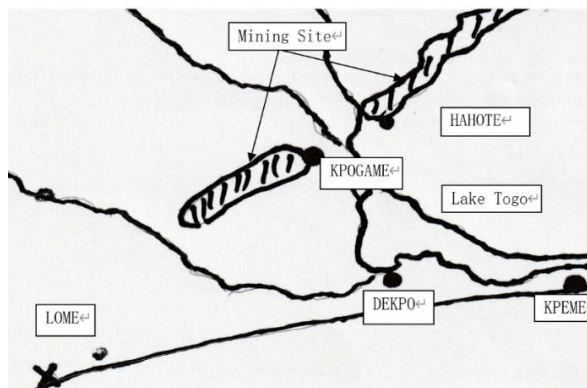


図 1-2 : ポガメ、デクポ、ペメ



[出典 LovelyPlanet] 及び [EHP PUBLISHING]より著者作成が作成

2. 2 調査スケジュール

- 7月30日 成田発 7月31日 トーゴ・ロメ着
- 9月1日～3日 ロメ市内：経済・財務省、LOME 大学及び ITRA（農業研究所）
- 9月4日～7日 肥料製造会社（外部）の確認、農村地域訪問とヒアリング
- 9月8日～9日 関係者とラップアップ。
- 9月10日 トーゴ・ロメ発 9月11日 成田着

3. 調査内容

3. 1 調査方法

現地視察とヒアリングを実施した。

3. 2 リン鉱石採掘・精製地及び肥料製造会社

(1) リン鉱石採掘・精製地

リン鉱石の採掘地ポガメと精製地ペメでは、写真撮影による確認を敷地外から実施した。

(2) 肥料製造所

化学肥料製造を行っている 2 会社を確認した。

一番目は、CIAT Sarl [CIAT]でスペイン系化学肥料製造企業。二番目は、PIA [PIA]というシンガポール系化学肥料製造企業。

3. 3 農村地域

ポメ、デクボ、ペメの農村で、農民へのヒアリングを実施した。

ポメで4名、デクボで2名、ペメ2名の農民から話を聞く事ができた。

(1) ポメ

ポメは、リン鉱石採掘地ポガメの北に位置し隣国ベナンとの国境に接している。南部の湿润サバンナ地帯である。ポメは、ポガメでの採掘に伴い 1982 年に村ごと初めて強制的に移住させられ出来た農村で、既に 42 年を経過している。

(2) デクボ

デクボはポガメから精製地ペメに向かう途中に位置する。作物は、メイズ、キャッサバ、ビーンズ（あずき）、グランノート（落花生）、バナナ、ヤシ等である。栽培方法は、トラクターをごく一部農民のみ使用し手作業主体である。化学肥料は極まれにしか使用していない。

(3) ペメ

ペメの農地はリン鉱石精製所に隣接し、メイズ、キャッサバ、トマト等が手作業で栽培されている。リン鉱石関連の環境汚染を確認できた。

3. 4 政府及び研究機関

リン鉱石開発プロジェクトについては、政府関係者と面談した。農村の環境問題については、大学研究者への接触を図った。

(1) リン鉱石関連プロジェクト

経済・財務省長官が、トーゴ政府のリン鉱石お活用する農業生産性向上プロジェクトについて守秘条件の下で述べた。

(2) LOME 大学

LOME 大学地質科学研究所の主任教授と面談できた。教授が、ポガメ、ペメにおけるリン鉱石開発とその廃棄物に重金属が含まれ、環境（土地、海洋）に放出されている事を述べた。

4. 今回調査で分かった事と今後

4. 1 判明事項

(1) リン鉱石プロジェクト

リン鉱石を活用する農業生産性向上プロジェクトは、厳重な守秘管理の下、トーゴ政府統制により実施されている。採掘精製だけではなく、自国に依る肥料製造プロジェクトが進んでおり、その成否が、今後の農業政策において重要になる。

(2) 農業関連

政府プロジェクト推進は、トーゴ政府による強権的な（独裁的な）農民・住民を支配に基づいている事が明らかである。農民・住民は不満を持ちながらも、明確な政府との力（武力）差から抗議活動を行えないでいる。

(3) 環境汚染

リン鉱石中の含有重金属による環境汚染が実際に存在する。長年の蓄積による健康障害が危惧される。トーゴ政府の積極的な対策は行われていない。

4. 3 今後

第1回調査と今回調査に基づいて、「トーゴ政府が掲げるリン鉱石開発に基づく農業生産性向上政策は必要か？あるいは効果的に機能するか？」を修士論文にて問いまとめる。

参考文献

LovelyPlanet www.lovelyplanet.jp/Togo_map.html

Kakpo, Fiacre, E. (2023) "Phosphate: Togo records a significant surge in output and sales" (TOGO

FIRST Invest In Togo: <https://www.togofirst.com/en/mining/1006-12052-phosphate-togo-records-a-significant-surge-in-output-and-sales>, retrieved)

CIAT <https://www.goafricaonline.com/tg/39680-ciat-engrais-lome-togo>

PIA <https://pia-togo.com>

EHA PUBLISHING <https://ehp.niehs.nih.gov/doi/10.5696/2156-9614-6.10.84>